

短歌 (投稿順)

酒を呑みテレビめくりつメシ喰らう崩れゆく街泣き叫ぶ人 皆野 石原 達也
 能登地震に続く羽田の大惨事 震憾と明く令和六年 三沢 眞下 杏子
 正月を祝う家族の団欒中激震襲う命の危険 皆野 根岸 詩子
 陽を浴びて咲けど冷たい風受けて可憐に揺れるふぐりの小花 皆野 萩原 初恵
 初めての娘の手料理玉子焼き不恰好でも味は最高 皆野 大澤 貴夫
 白糠にタンタカタン名道の有り旅の先行き楽しく成りぬ 皆野 戸塚喜久雄
 元日に緊迫せまるアナウンス「にげてください！」動悸はげしく 皆野 戸塚喜久雄
 米寿過ぎ友等に頂く年賀状会いたいですと添え書きのあり 国神 藤原マキ子
 落葉掃く中に空蟬転がりて胸キュンとなり土に埋めやる 下日野沢 浅見 豊子
 更新のハンドル握る教習所困塊世代の試練これから 三沢 新井 民子
 生ハケ月なる嬰児よ這い進まむとお尻もたげる仕種愛らし 三沢 新井 叶子
 山門の仁王潜りて賑やかな元朝護摩の二十三夜寺 皆野 村田ハツ代
 被災地で徐々に始まる二次避難中学生が集団で発つ 皆野 引間 万亀
 冬雲に隠れし南十字星石垣島の夜の夜空は 皆野 打木 昭廣
 能登地震テレビ番組切り変わるすこい被害のニュースにあぜん 上日野沢 四方田利男
 闇に打つ追儼の豆を打つ我は己の中に鬼住まわせて 皆野 太幡琉美花

俳句 榎本順江 選 投稿数 16 句

社殿開く光あたらし初詣 国神 藤原マキ子
 (評)日々お参りしている社寺や恵方の社寺への初詣、作者は神社へのお参りです。淑氣に満ちた境内、開いた社殿に差し込む日の光は神々しい。平和や息災を祈り、新しい年が始まりました。良き御加護がありますように。二句目、寒さの中もう立春。梅の花が香り福寿草が咲きそうです。そんな春の気配の中作者は美容院にいます。はさみの音が軽やかにお似合いの髪形を作る。素敵な髪形の作者が本格的な春を闊歩するのもしうすぐです。三句目、通園のバスを待つ園児達。霜柱を見つけてはじつとして居られません。バスが来るまでに全部踏んづけなくちゃ。楽しそうな園児達の姿。さくり、さくりと霜柱の倒れる音が聞こえてきます。
 春立つや髪切る音の軽らかに 皆野 太幡琉美花
 楽しみを潜むそこここ春の野よ 皆野 萩原 初恵
 バスを待つ園児さくりと霜柱 一巡り辰年生まれの元三会 皆野 小菅恭青史
 皆野 島 弘
 寒肥を施す今日の日和かな 風邪に臥し一日遅れ七日粥 三沢 眞下 杏子
 下日野沢 新井 節子
 被災地に戦地に春を呼ぶ祈り 北風凍むる十指の歪み愛おしむ 三沢 新井 叶子
 皆野 引間 千鶴
 声張り上げ父の面影鬼やらい 下日野沢 浅見 豊子
 冬の月日本探査機着陸す 上日野沢 四方田利男